

第3回

富士山 世界遺産 セミナー

平成29年秋に富士宮市に完成する富士山世界遺産センター(仮称)は、「富士山学」「世界遺産学」の国際的・学際的・総合的な拠点として調査研究を進めていきます。その成果を富士山世界遺産セミナーとして公開し、皆様とともに「富士山学」「世界遺産学」を“楽習”する機会を設けます。

聖徳太子と富士山



FUJISAN WORLD HERITAGE SEMINAR

2016年3月20日(日)
午後1時～午後4時30分

●開場:12時30分より

|会場|

富士市消防防災庁舎7階大会議室
(富士市永田町1-100)

入場無料・予約不要 (定員120名先着順)

主催:静岡県・富士市

富士市消防防災庁舎へのアクセス方法

- JR新富士駅から吉原中央駅行きバス「市役所前」で下車してすぐ(所要時間10分)
- JR富士駅から吉原中央駅行きバス「市役所前」で下車してすぐ(所要時間15分)
- JR吉原駅から吉原中央駅行きバス「吉原中央駅」で下車(乗車時間15分)後、徒歩10分

※「吉原中央駅」は鉄道の駅ではなくバスターミナルです。
※駐車台数が限られているため、公共交通機関をご利用ください。

〈お問い合わせ先〉

静岡県文化・観光部文化局世界遺産センター整備課
TEL:054-221-2856/3657
FAX:054-221-3757
E-mail:whcenter-seibi@pref.shizuoka.lg.jp

第3回

富士山 世界遺産 セミナー

FUJISAN WORLD
HERITAGE SEMINAR

聖徳太子と富士山



プログラム

第3回富士山世界遺産セミナー 開催に当たって

松島 仁 | 静岡県世界遺産センター
整備課准教授

「“イデオロギー”としての
聖徳太子そして富士山」

講演1

阿部泰郎 | 名古屋大学人類文化遺産
テキスト学研究センター教授

「聖徳太子と富士山」

講演2

土屋貴裕 | 東京国立博物館学芸研究部
主任研究員

「聖徳太子絵伝に描かれた
東国—富士山を中心に—」

プレ解説

大高康正 | 静岡県世界遺産センター
整備課准教授

「掛幅縁起とその絵解き」

聖徳太子絵伝絵解き実演

末松美咲 (名古屋大学大学院)

「太子と黒駒」



〈講演者略歴〉

阿部泰郎 (あべ やすろう)

名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター教授。
専門は日本中世宗教文芸。「湯屋の皇后—中世の性と聖
なるもの」(名古屋大学出版会、1998年)、『聖者の推
参—中世の声とヨコなるもの』(名古屋大学出版会、
2001年)、『中世日本の宗教テキスト体系』(名古屋大
学出版会、2013年)ほか著書多数。
富士市立博物館・六所家総合調査聖教分野の研究代表
者もつとめる。

土屋貴裕 (つちや たかひろ)

東京国立博物館学芸研究部主任研究員。日本美術史専
攻で、絵巻を中心としたやまと絵、説話画の研究を専
門とする。東京国立博物館で「鳥獣戯画—京都高山寺
の至宝」(2015年)等の特別展を担当。論文に「太子
絵伝のある空間—法隆寺伝来の二つの聖徳太子絵伝—」
(『明日香風』131号、2014年)などがある。



古来、至高の存在として神格化されてきた
聖徳太子。延喜17年(917)には聖徳太子の伝
記『聖徳太子伝暦』も成立します。

中世には『聖徳太子伝暦』の注釈が活発に
行われ、多くの聖徳太子伝や絵伝、肖像が再
生産され、さまざまな“読み”が施されます。聖
徳太子には王法(政治権力)と仏法(宗教権威)
を統合した超越者のほか、観音菩薩の化身、
共同体の理想的な始源、政治規範としての「十
七条憲法」を定めた理想的な為政者、王権の
危機を救う護国の英雄ほか多様なイメージが
投影されました。聖徳太子こそは、観念を運
ぶ“車”であり、観念の体系—イデオロギー
でした。

『聖徳太子伝暦』には、太子が甲斐国から獻
上された黒駒にまたがり雲に乗って富士山に
登ったという伝説も記述されています。『聖徳
太子伝暦』を絵画化した秦致貞筆「聖徳太子
絵伝」(1069年・東京国立博物館)は、富士山
を描いた現存最古の絵画作品として知られて
います。富士山を日本人の心性や美意識を歴
史的に映し出してきた“日本の肖像”、日本と
いう共同体を象徴的に可視化するアイコンと
して位置づけるならば、現存最古の富士山絵
画が聖徳太子に枠づけられていることは、多
くの示唆を含んでいることでしょう。

第3回富士山世界遺産セミナーでは、富士
山と聖徳太子をめぐる伝説について、聖徳太
子伝・絵伝に高い知見をもつ国文学と美術史
学の研究者による講演を行ったうえ、「聖徳太
子絵伝」の絵解きも実演します。